

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	雄勝郡羽後町立羽後中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	25
学級数	5	4	4	2	15	
生徒数	134	126	136	5	401	

実践研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」向上のための、個に応じた指導の工夫改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年，全教科において実施する。</p> <p>学力向上は全教育活動を通して取り組むべき課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2，3年生数学（習熟度別指導） 習熟の程度の差が出やすい教科であるため，平成13年度から継続する。 ・ 3年生英語（習熟度別指導） 習熟の程度の差が出やすい教科であるため。 ・ 3年生国語（「書くこと」に関する単元）（1C2T） 研究の実施学年・教科の枠を広げ，実態調査の結果から「書くこと」に関してより個に応じた指導を行うため。 ・ 2年生理科（1C2T） 研究の実施学年・教科の枠を広げ，実態調査の結果から観察・実験においてより個に応じた指導を行うため。 ・ 1，2年生社会（1C2T） 研究の実施学年・教科の枠を広げ，生徒の多様な課題に応じた指導を行うため。
--

(2) 年次ごとの計画

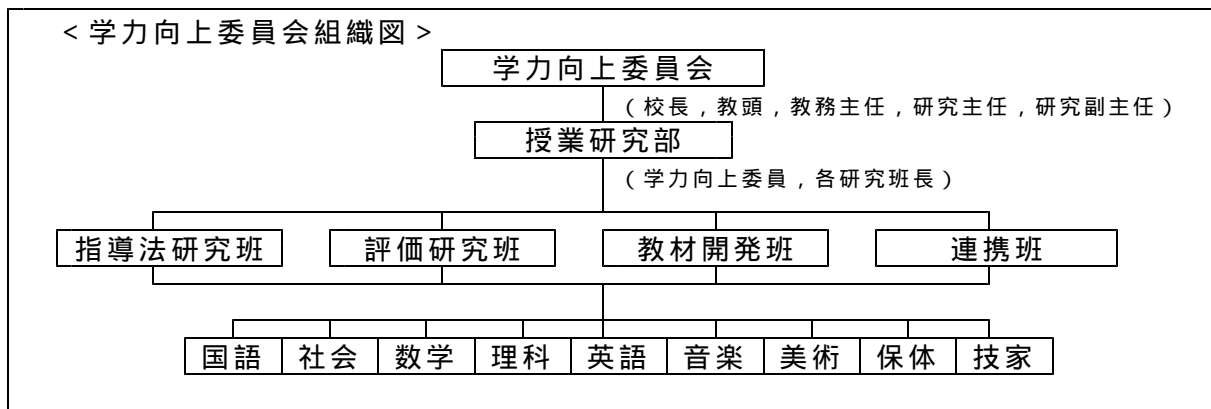
平成14年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」向上のための、個に応じた指導の工夫改善 研究の見通し（仮説）</p> <p>生徒個々が習熟の程度に応じた課題で学習することにより、学習のねらいに迫ることができるのではないかと。また、補足的な学習や発展的な学習を取り入れ、個の実態に応じたきめ細かな指導を行うことにより、一人一人の学習意欲をより伸ばすことができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>運営組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内に学力向上委員会を組織し，全職員が研究班に所属し研究を進め
--------	---

平成 14 年 度	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接フロンティアスクール(西馬音内小)との連携組織をつくる。 <p>少人数指導の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生の数学科，英語科においてで習熟度別に2クラスを3クラスに再編成し，習熟の程度に応じた課題，進度等を設定して個に応じた指導を進める。 <p>選択教科による個に応じた指導の取り入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の選択授業において数学科，英語科で補充的な学習や発展的内容を扱う時間を確保し，基礎・基本の定着とその発展をねらう。
--------------------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」向上のための，個に応じた指導の工夫改善 研究の見通し(仮説)</p> <p>生徒個々が習熟の程度に応じた課題で学習することにより，学習のねらいに迫ることができるのではないか。また，発展的な学習や補充的な学習を取り入れ，個の実態に応じたきめ細かな指導を行うことにより，一人一人の学習意欲をより伸ばすことができるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>学力向上委員会を中心とした，授業における指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の集計結果を生かした授業改善を図る。 ・ミニ研究授業(オープンレッスン)を行い指導力向上を目指す。 <p>個々の学力に対応した学習課題の工夫や授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科，英語科における習熟度別指導において，各コースのコンセプトを明確にし，ねらいに沿った学習課題を工夫した授業づくりに取り組む。 ・国語科の「書くこと」の指導，理科の観察・実験，社会科の調べ学習，課題別学習において1C2TによるTTを行い，より個に応じた指導を行う。 ・平成14年度の学習状況調査等の分析をもとにして，個に応じた学習プリント等を作成し授業で活用する。 <p>連携の拡大と深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度の学力の分析を受けて，不得意分野の補充を重視すると同時に，町内2中学校の先生方との共同研究により，個に応じた指導の研究を進める。(学区内小学校6校との連携組織の必要性も感じているが，同じ学習内容を指導している中学校間で授業づくりについての共同研究を優先して取り組んだ。) <p>個別指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と学習への意欲付けのため，個別指導に力を入れ，家庭学習の習慣化を図る。 <p>個々の学力の変容の継続的調査 平成15年度の成果の検証</p>
--------------------	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」向上のための、個に応じた指導の工夫改善 研究の見通し（仮説）</p> <p>生徒個々が習熟の程度に応じた課題で学習することにより、学習のねらいに迫ることができるのではないかと。また、補足的な学習や発展的な学習を取り入れ、個の実態に応じたきめ細かな指導を行うことにより、一人一人の学習意欲をより伸ばすことができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>2年間の成果の検証をもとにした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校並びに協力校による2年間の成果を検証し、課題を明らかにし、さらなる改善を目指す。 ・平成15年度の実践を指導者側、生徒側、保護者側等、多面的に評価し、課題を明らかにして、実態に即した具体的な方策を策定する。 <p>習熟度別指導等の積極的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の成果を検証し、数学、英語を中心に他教科においても、効果的な習熟度別指導、少人数学習指導を展開していく。 <p>成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次、2年次の成果をまとめ、本事業の普及に資するとともに、より効果的な実践のために外部からの示唆を得る。 <p>個々の学力の変容の継続的調査 3ヶ年の学びの継続と充実</p>
--------	---

(3) 研究体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

「学校が好きだ」「勉強は大切だ」「よい成績がとれるように勉強したい」「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」と考える生徒が全学年で県平均を上回っており生徒の学習への意欲の向上がみられる。学習規律がよくなってきている。特に授業の始まりがスムーズになっている。

「学習に関するアンケート」で教科によっては、その教科が「大好き」、もしくは「好き」と答えた生徒が県平均を20%以上、上回っている教科もあり授業改善の成果が得られていると判断できる。

習熟度別学習で、友人関係などで自分に適さないコースを選択した生徒も、何度が自己選択の経験を通して適切なコース決定ができるようになってきた。フロンティアスクールとしての3つの研究の視点は、研究を進めるほどかわり合いが深まり、各研究班の共通理解と連携が求められ、

→ 生徒の実態把握 (See) 教材の開発 (Plan) 指導方法、指導体制の工夫 (Do)

というサイクルで教科指導が成立することを考えるようになった。

1 C 2 T や 2 C 3 T の授業が増え、職員室内で授業の進め方について話し合う教師の姿が多くなった。職員室に活気が出、他教科を担当する教師の刺激になっている。

全校の取り組みとして基礎学力の定着を図るために漢字・計算・英単語の全校校内検定を実施した。少しでもステップアップしようと生徒の意欲的ながんばりが見られた。

2 今後の課題

「学び合い・練り合いの場面の意図的な導入」については、各教科でのグループ学習や生徒同士での教え合い学習、ペア・2ペア学習、ジグソー学習、自分の立場を明確にした上での話し合い活動など、練り合い学び合う場面を授業の中に意図的に設定し、表現力・思考力を一層高めていきたい。

「個に応じた指導」に重点をおき、基礎・基本の定着を図っているところであるが、学習状況調査の結果と照らし合わせてみると、確実に定着しているとは言いがたい状況である。昨年度の総括的評価においてはおおむね満足できる状況であった内容でも、学習状況調査の結果では通過率が著しく低下している問題も見られ、学習活動が一時的な知識や技能の習得に終わってしまっているとも考えられる。定着のための手立てが必要である。

習熟度別学習でコースを選択する際に、レディネスや形成的評価をもとに判断するのでなく、担当する教師で選びたいという生徒が見られる。「どの先生から教わっても大丈夫」と生徒が安心できるような教師集団でありたい。週1回実施している公開授業を継続し、お互いに研鑽し合い高め合っていきたい。生徒の学習意欲の向上が「見える学力」の伸びにもつながるよう、教師の指導力向上と、指導の改善に一層努めなければならない。

週1時間の1 C 2 T では効果的な活用ができない。来年度は思い切って学年を絞り、より効果的なT Tを工夫する。

ホームページ上での情報発信に着手する。

学力把握のための学校としての取組

- ・各教科で単元ごとの学習状況を把握するために各単元の終わりに単元テストを実施する。
- ・年5回(7月, 10月, 12月, 2月)の定期テストを実施する。
- ・学習状況調査の結果を分析し、その追調査により生徒の変容を把握する。
- ・年度始めに前学年の学力の実態を把握し、向こう1年間の指導資料とするために標準学力検査N R Tを実施する。また、年度末(3月)にその学年で学習した内容について身に付いているかを確認するため標準学力検査C R Tを実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年5月13日(火) 於：横手平鹿広域交流センター
平成15年度少人数授業等加配校研究協議会において自校の昨年度の取り組みの成果と課題，今年度の研究の予定を報告した。
- ・平成15年6月3日(火) 於：秋田県立プール2階会議室
平成15年度学力向上フロンティア事業学力向上推進協議会のグループ協議において自校の昨年度の取り組みの成果と課題，今年度の研究の予定を報告した。
- ・平成15年10月6日(月)，7日(火) 於：羽後中学校
町内中学校の先生方に協力してもらい，授業づくりの共同研究を進めた。
国語科，社会科，数学科においては指導案検討会，英語科においては授業参観と研究協議を実施した。
- ・平成15年10月30日(木) 於：羽後中学校
自主公開研究会において全教科の授業を公開し，自校の取り組みやその成果と課題を紹介した。
- ・平成15年12月9日(火) 於：横手平鹿広域交流センター
第2回「学力向上フロンティア事業」連絡協議会兼フロンティアティーチャー研修会において自校の今年度の取り組みの成果と課題について報告した。
- ・平成16年1月21日(水) 於：秋田ふるさと村ドーム劇場
平成15年度県南地区「確かな学力」向上推進協議会において，平成15年度の取り組みを発表した。
- ・平成16年11月5日(金) 於：羽後中学校
公開研究会を開催し，研究成果の普及を図る。
- ・現在ホームページ上で平成14，15年度の研究の取り組み，成果と課題を公開するために作成中である。

~~~~~

【新規校・継続校】      15年度からの新規校      b 14年度からの継続校

【学校規模】              3学級以下                      4～6学級  
                                 7～9学級                      10～12学級  
b 13～15学級                      16学級以上

【指導体制】              b 少人数指導                      b T・Tによる指導  
                                 その他

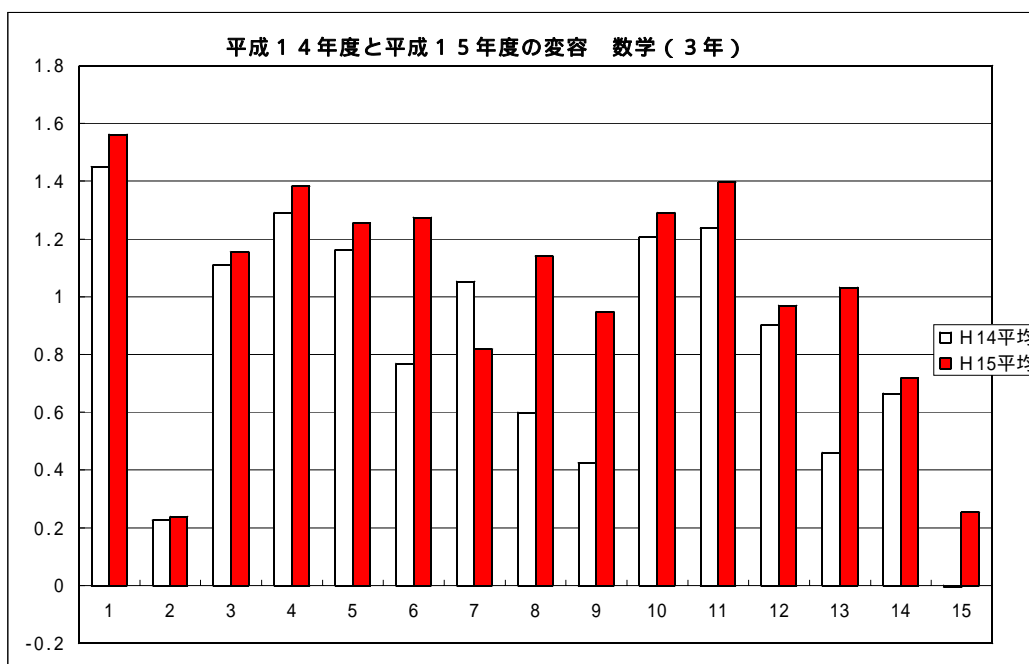
【研究教科】              b 国語                      b 社会                      b 数学                      b 理科  
                                 b 外国語                      b 音楽                      b 美術                      b 技術・家庭  
                                 b 保健体育                      b その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      b 有                      無

「学習をふり返ってみよう」集計結果（平成14年度12月，平成15年度9月実施）

（例）3年数学の集計結果

|                                      | 1                        | 2                    | 3                              | 4                        | 5                              | 6                            | 7                            | 8                                   | 9                                | 10                     | 11                     | 12                        | 13                            | 14                           | 15                                    |
|--------------------------------------|--------------------------|----------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|
|                                      | 1<br>毎時間の授業の準備はしっかり行っている | 2<br>必要な予習をきちんと行っている | 3<br>毎時間の授業で、しっかりと課題をもつて学習している | 4<br>授業の進め方は自分のペースにあっている | 5<br>分からないとき、先生から十分にアドバイスがもらえる | 6<br>何を質問されているか、何をすればよいのか分かる | 7<br>自分の意見やことばが、授業の中で取り上げられる | 8<br>説明がややこしかったり、分かりづら<br>いと思うことがない | 9<br>授業の中で、理解できないままに終わ<br>ることがない | 10<br>板書は、見やすい板書になっている | 11<br>ノートに整理する十分な時間がある | 12<br>質問したいときに質問できる雰囲気がある | 13<br>考えるためのプリントや資料が足りて<br>いる | 14<br>与えられた宿題をしっかりとやってい<br>る | 15<br>その日学習したことを、家で復習する<br>習慣が身に付いている |
| A…3→+2<br>B…2→+1<br>C…1→-1<br>D…0→-2 |                          |                      |                                |                          |                                |                              |                              |                                     |                                  |                        |                        |                           |                               |                              |                                       |
| H14平均                                | 1.45                     | 0.23                 | 1.11                           | 1.29                     | 1.16                           | 0.77                         | 1.05                         | 0.60                                | 0.42                             | 1.21                   | 1.24                   | 0.90                      | 0.46                          | 0.67                         | -0.01                                 |
| H15平均                                | 1.56                     | 0.24                 | 1.15                           | 1.38                     | 1.25                           | 1.27                         | 0.82                         | 1.14                                | 0.95                             | 1.29                   | 1.39                   | 0.97                      | 1.03                          | 0.72                         | 0.25                                  |



- ・ 質問 8 , 9 , 13 については大幅な伸びが見られた。指導する側がねらいを明確にして授業改善に取り組んだ成果と考えられる。
- ・ 質問 3 から質問 13 までの間で評価値の平均が 1 をこえないものについては、今後ますます指導する側の改善の必要があると考えている。特に質問 7 については受け身の授業のあらわれであるととらえて、一人一人の意見や発想を拾い上げていく授業にしていかなければならない。
- ・ 質問 2 , 14 , 15 については、部活動も終え、進路決定にむけ取り組まなければならない時期に入っているにもかかわらず、小幅な変容しか見られなかった。しかし、家庭学習を行っていないわけではなく、調査時期が実力テスト前であったこともあり、系統性の高い数学では受験対策として 1 , 2 年の復習に重点を置いているため、日々の授業の予習、復習まで手が回っていないのが現状である。